

## 兵庫・袴狭遺跡 (2) (内田地区)

はかざ

1 所在地 兵庫県出石郡出石町袴狭字内田

2 調査期間 一九九四年(平6)二月～三月

3 発掘機関 出石町教育委員会

4 調査担当者 小寺 誠

5 遺跡の種類 官衙跡か

6 遺跡の年代 平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

袴狭遺跡は町を縦断して流れる袴狭川(出石川支流)流域に確認された遺跡で、これまでの調査で合わせて二〇〇点以上の木簡が出土している(『木簡研究』一一・一

三・一五)。この遺跡の出土

遺物のうち最も多いのは奈

良・平安時代の木製祭祀具

で、すぐ北に位置する砂入

遺跡や田多地小谷遺跡、嶋

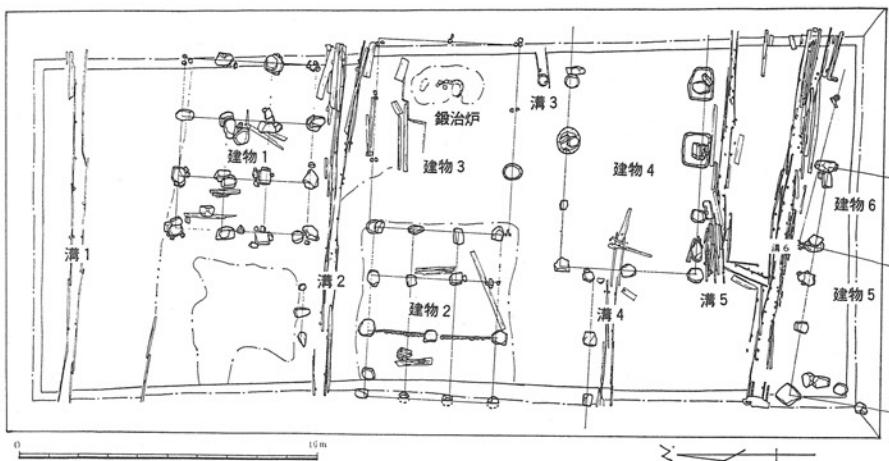
遺跡など広範囲から八〇九

世紀代の祭祀具が出土する。



(出) 石

これらの遺跡は袴狭遺跡群



袴狭遺跡第4次調査・遺構平面図

と総称され、出土する木製祭祀具は数万点にも達している。

このような状況のなか、昨年度より袴狭川上流の調査を開始したところ、礎石建ち総柱の倉庫と思われる建物を含む建物三棟や水路が見つかり、何らかの官衙に関わる施設跡と判断された。この結果を踏まえ、本年も継続してその隣接地の調査を実施した。調査面積は約四二〇m<sup>2</sup>である。

調査の結果、礎石建物四棟、掘立柱建物二棟とこれらの建物に伴う溝六条が見つかった。建物三は簡単な覆屋的なものと考えているが、この下から鍛冶炉が確認された。題籤軸三点はこれらの建物を検出する際に除去した遺物包含層から出土した。

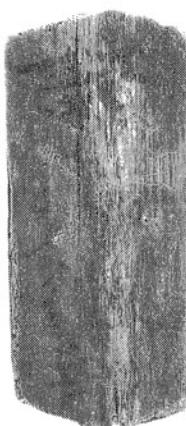
伴出した遺物は、唐鏡（草花飛鳥八稜鏡）、丸輛・巡方・鉈尾などの帶金具や銅錢（萬年通宝）、銅製壺鑑片、フイゴ羽口、鉄滓、墨書き器、綠釉・灰釉陶器、曲物・椀などの木製容器、糸巻きなどの機織具、人形などの木製祭祀具と豊富である。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) 「[諸郷]」  
□□徵部 (題籤軸)

(57)×25×5 061

題籤軸三点のうち文字が確認できたのは一点のみである。裏面は現状では墨痕を確認できない。徵部は「近江国大国郷壳券」に例がある（『平安遺文』六五・八九・一一六・一二〇・一三一）。各郷の徵部からの報告文を書き連ねた文書の軸であろうか。



（小寺誠）

当遺跡がどのような性格の官衙かはなお明らかにし得ないが、これまで多数の木簡が出土しながら、明確な遺構が少なかつた袴狭遺跡群の中で、前年度に統いて建物遺構が確認されたわけで、今後の調査の進展が期待される。

釈読にあたり奈良国立文化財研究所の寺崎保広氏のご教示を得た。